

## 施策調査専門委員会の検討状況について

## 【第 71 回施策調査専門委員会 (R7. 7. 10)】

- <議題> 1 役員選出  
2 今後の施策調査専門委員会スケジュールについて  
3 令和6年度モニタリング調査結果について  
4 事業モニターチームとの連携について
- <報告事項> かながわ水源環境保全・再生基本計画（素案）について

## &lt;主な意見等（要旨）&gt;

## 【議題 1 役員選出】

- 委員長には吉村委員（東京科学大学環境・社会理工学院教授）が選任され、副委員長には吉村委員長より五味委員（名古屋大学大学院教授）が指名された。

## 【議題 2 今後の施策調査専門委員会スケジュールについて】

- 当委員会の所掌事項、前期委員会からの引継事項を確認した後、今年度の専門委員会開催スケジュールを確認した。（年 4 回開催予定）
- 事業モニターチームとの連携に関しては、事業モニターチームでも議論し、今年度 3 回目以降の施策調査専門委員会での継続議題とした。

## 【議題 3 令和6年度モニタリング調査結果について】

- 今後、かながわの森林が健全な状態であることを図で示せるとよい。地下水かん養だけではなく、洪水対策や生物多様性も含めて全体としてどういう状況が望ましいかも重要になってくるので、もし議論や整理が進めば、最終評価書の最終版に入れていけるとよい。
- 河川のモニタリング調査について、県民参加型の調査結果が施策の効果を示すことができる内容になれば、とりまとめの上、参加者にもフィードバックしてほしい。
- 水質調査の栄養塩について、依然として地域差があると思う。窒素もしくはリンの濃度が高いところは重点的に対策を取るという流れにつながっているかが気になった。調査結果をフィードバックして事業に活かしていくところが確実に進むとよい。

## 【議題 4 事業モニターチームとの連携について】

- 施策調査専門委員会と事業モニターチームで、ストーリー性などについて議論・共有することで、評価のために必要な情報や、どのような視点で視察を行えばよいか整理され、現場での評価に活かすことができる。

- 事業モニターに必要な情報については事前に整理しておく必要がある。事業モニターチームから、こういう情報が欲しいというところを伝えていただき事務局で検討いただきたい。
- 新規委員に対しては、有識者から説明するという意見も出たが、この点については、事務局とも相談し、可能であれば事業モニター前に実施できるとよい。
- 事業モニター結果をその後の順応的管理につなげていくという点は、この委員会と事業モニターチームとの連携の議論で具体化していく部分だと思う。

**【報告事項 かながわ水源環境保全・再生基本計画（素案）について】**

- 県の自然再生に関する計画が幾つもあり、それらの計画の位置関係や関係性についての記載がないので、どの事業がどの計画に基づいて動いているのか分からない。
- 全体の印象として、これまでの部分（第1ステージ）の方向性をかなり踏襲した雰囲気強いという気がする。
- 施策体系図について、「基盤整備」を「道から遠い森林」と「道から近い森林」という分け方をされているのが、近いと遠いという表現が曖昧である。
- 基本計画に関してここまで携わってきた委員メンバーを含めて意見を上げていくのは重要なことなので、オンラインでの勉強会や意見交換会を企画いただきたい。

**【第 72 回施策調査専門委員会 (R7. 10. 9)】**

**<議題> 令和 6 年度点検結果報告書案について**

**<報告事項> 第 I 期かながわ水源環境保全・再生実行 5 か年計画 (2027-2031) (素案) について**

**【議題 令和 6 年度点検結果報告書案について】**

- 県民会議委員への意見照会については、今年度から 2 回から 1 回に回数を変更している。
- 第 4 期の 5 年間で目標の達成が困難な事業も出てくるかと思われるが、計画の仕方も含めて反省点があれば、最終評価報告書などで記載していきたい。
- 生活排水処理施設の整備促進 (8 番事業) について、公共下水道の整備促進は広く整備されているので、これを強調するのはよい。一方、一般家庭等の高度処理型合併処理浄化槽の整備基数は、前年度が 76 基で、令和 6 年度が 62 期と増えているわけではないので、こちらは例年どおりという書きぶりにするなど、分けて記述いただきたい。
- 総括に書かれている内容が報告書の情報から読み取れないものもあるため、総括に突然出てくることがないように注釈等で捕捉するなどの整理が必要。
- 間伐材の搬出促進事業 (4 番事業) について、A 材以外の割合についても記載いただきたい。
- 相模川水系上流域対策の推進 (9 番事業) の生活排水対策について、調査結果から目標のリン濃度を達しているが、処理前のリン濃度の値があるとより効果が分かりやすいので、データがあれば追加いただきたい。

**【報告事項 第 I 期かながわ水源環境保全・再生実行 5 か年計画 (2027-2031) (素案) について】**

- 生物多様性保全の観点から、どんな森林構造に持っていくかという話が要だと思う。新計画の開始前には間に合わないので、最初の 5 か年をその議論の期間にあて、十分に議論した上で、ある程度具体性を持ったゴールを設定してほしい。
- ネイチャーポジティブの関係で生物多様性や気候変動の問題についても評価方法の開発が進んできている。最初の 5 年間で世界中の成果を取り入れ、神奈川県に合った指標を検討してほしい。
- 県民会議が提出した意見書の内容がどのように計画に反映されたかを、次回の県民会議で報告いただきたい。